

LPガスCP速報(2024年3月積)

1. 3月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **630** ドル (前月比± 0 ドル)

ブタン **640** ドル (前月比± 0 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、暖冬により需要は低迷、原油・ナフサ高で代替の石化需要が下支えする形となった。春節休暇もあり閑散としていた市場は、中国勢の復帰で引き合いが増えており、稼働率低迷のPDH事業者からも購入テンダーが散見されている。極東CFR市況は、第4週でプロパン、ブタン620 ドル どころ、第1週から30 ドル 上昇している。

米国市場は、先月の大寒波の影響が続き、NGLの供給が減少、製油所稼働率も低下しプロパン供給が大幅に減少した。一方、暖房用プロパンの需要は増加、輸出は高水準で推移したため、プロパン在庫の大幅減少が続き、6週連続で前年割れとなった。これを受けモンベルビュープロパンスポット価格は中旬には497 ドル まで上昇、月間平均で前月比50 ドル 続騰の475 ドル / トン どころ(グラフ①参照)となった。天然ガス市況は急騰後、2 ドル (MMBTU) を割り込み、2月の安値記録となったが、在庫が2022年6月以来の水準まで低下したプロパンは寒波が去っても450 ドル 台の高騰が続いている。

フレート市況は、乱高下が続いている。先月初に140 ドル であったスポット運賃は今月第1週には30 ドル まで下落したが、第4週には80 ドル まで戻している。パナマ運河の通峡滞船日数は緩和したものの、スエズ・紅海運航から喜望峰経由への転向により、航海日数、コストも上昇、需要のピークを過ぎ、船舶需給も緩和しているが、米国ガルフの濃霧の影響も懸念されるところ。なお、米国～日本のスポット運賃も第1週の70 ドル から第4週には110 ドル に上昇した。

ナフサ市況は続伸、月間平均は前月比5 ドル 続騰の681 ドル どころ。原油市況の上昇と供給減で中旬には720 ドル まで上昇し、ナフサ高により代替の石化ブタン需要が高まった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比10 ドル 下落の447 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は原油市況に連れ高、需給逼迫で同40 ドル の続騰となり815 ドル どころ、ガスオイルとC重油との格差は368 ドル に拡大した。

3月CPは前年同月比プロパン90、ブタン100 ドル のそれぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタンともに1ポイント下落、前年同月比ではプロパン12、ブタン15ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	30	50	60	80	55
CP先物指標:P	580	615	625	615	609
CP先物指標:B	590	630	635	625	620

② 原油市況等

今年の原油市況は70~80 ドル の狭いレンジでの取引が続いている。イスラエルのガザ侵攻が凄惨さを増すなか、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が紅海で船舶攻撃を繰り返し、米英軍はフーシ派の拠点を攻撃、中東情勢の緊迫化が原油市況を下支えする形となった。供給面ではOPECプラスの減産延長観測と、非OPECプラス(米、カナダ、ブラジル、ガイアナ等)の増産が綱引き、需要面では、低迷する中国需要の回復が見通せないものの米国経済は好調、株価は連日最高値を更新、金融市場はリスクオンとなった。一方、原油先物市場は、WTIプロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ざやが拡大、需給逼迫感が示されているが、アルゴリズム取引が市場を主導し、テクニカル抵抗線から抜け出せない状況が続いている。

○2月積みアラビアン・ライト(2月1~28日までの想定)は82.35 ドル (前月比+0.05 ドル)

熱量等価AL100% プロパン675.18 ドル / トン ブタン665.92 ドル / トン

AL比 プロパン93.31% ブタン96.11%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2024年3月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

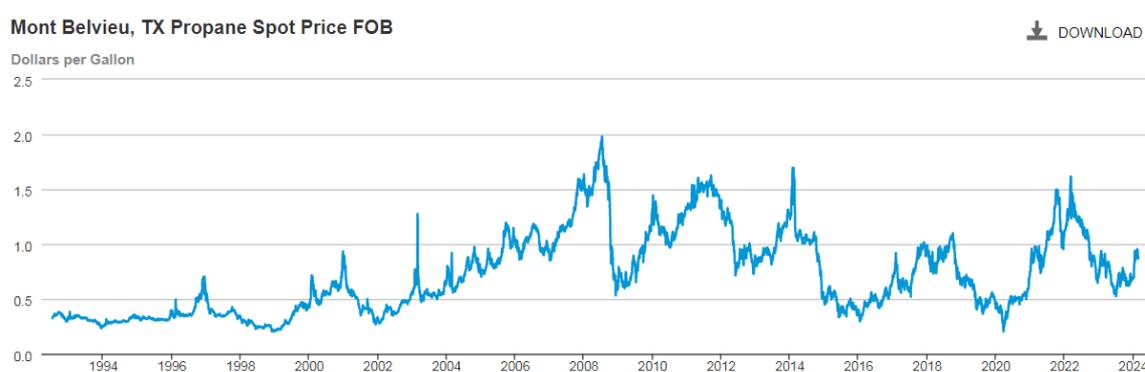
適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
1月月間	150.50	101,700	105,300	+3,100	+1,400

* T T S平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

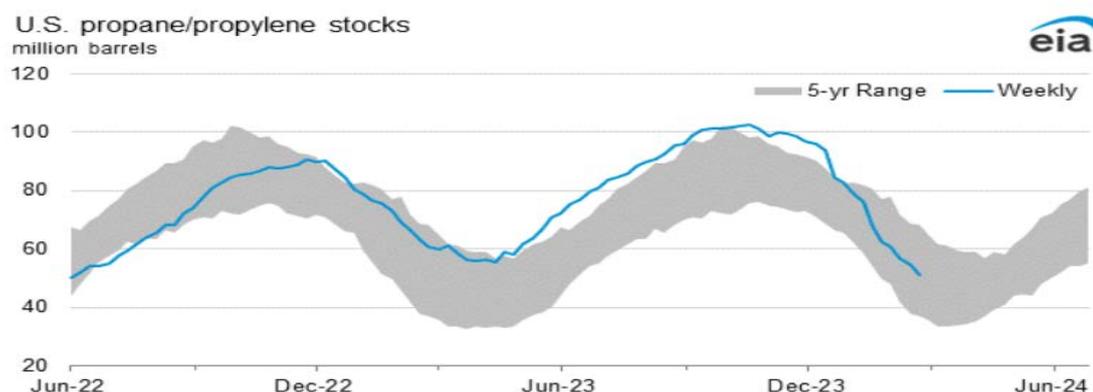
上記は2月1～29日までのT T S平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは1月28日までの価格を基にE I Nで試算（472ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

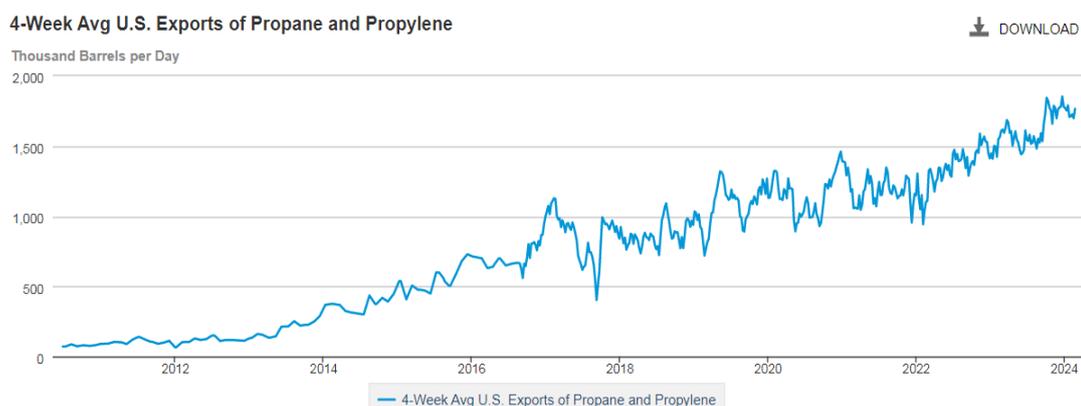
① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出货量推移



出典：EIA